**台湾工作機械情報**

**2022年４月15日**

* **台湾の年度行事「TIMTOS x TMTS 2022」が新たな奇跡を起こす**

世界的なコロナ流行の影響を受ける中、工作機械展「TIMTOS x TMTS 2022」が外国貿易協会、台湾工作機械とパーツ工業公会、台湾機械工業公会によって、デジタルイノベーションという考えをメインに開催された。出展者も意欲的に参加、海外からの来場者は国境を越えてオンラインで参加した。世界的に流行するコロナ禍の中で台湾は流行を防ぐことに成功し、また大規模な展示会開催を成就させるというもう一つの「奇跡」を達成した。

今回は国境管理を突破するためリアルとバーチャルを並行して実施、海外のバイヤーもオンラインを通して工作機械業界の革新的なスマートマニュファクチャリング研究開発の実力を見ることができる。台湾の工作機械産業は、インテリジェント化、デジタルアップグレードに向けて変革、将来的にはスマートマネーを稼ぎノウハウを売るようになる。機械工業会の魏燦文会長は「TIMTOS x TMTS 2022は2022年の太鼓を叩くようなもので、特に2021年は台湾の工作機械が世界第3位の輸出国として前年同期比29.1%の輸出増となり、美しい勝利だった」と述べた。

TIMTOS x TMTS 2022は2つを統合し、世界の工作機械製造業界にとって最新モデルとスマート・マニュファクチャリング・ソリューションを紹介する重要な国際的プラットフォームとなることを目指している。本展示会では、「スマートマニュファクチャリング」と「スマートキーコンポーネント」の2つをメインテーマとし、インダストリー4.0、スマートマニュファクチャリングソリューション、工作機械産業のサプライチェーン全般を網羅した展示会となった。

（資料源：工作機械とパーツ雑誌，2022，NO.138 頁66-67）

* **TIMTOS x TMTS 2022　デジタルトランスフォーメーションの実現**

**―リアルとバーチャルの世界で隠れた価値を創造**

台湾工作機械とパーツ公会（TMBA）は、精密機械センター（PMC）、ソフトウェアサービスプロバイダー、会員メーカーとともに、スマートマニュファクチャリングのSaaSマイクロサービスを積極的に推進している。金属加工業者は1つのアプリケーションを独立して実行される小規模なサービスに分割することで、システム統合やソフトウェア開発の能力不足問題を克服、クラウドベースのインテリジェンスモジュールによって付加価値の高いサービスを提供することができる。

SaaSマイクロサービスは業界を越えて標準化された情報モデルに基づき、アプリケーション・インターフェースを介して通信するコミュニケーション・インターフェースを構築する。異なるメーカーやソフトウェア間でAPIデータを共有し、俊敏なローリングアップデートや無限に広がる柔軟な拡張性を活用することができる。分解と組み合わせが容易になり必要な環境を瞬時に組み立て各メーカーを超えたプラットフォームを統合、メーカー間のコミュニケーションをスムーズにする。また生産現場における「機器のトラブルシューティング」と「生産の最適化」といった頻繁に発生する問題を解決することができる。中小企業をサポートしバリューチェーン再構築に向けたスマートマニュファクチャリングとデジタルトランスフォーメーションの早期導入を支援する。メーカーのネットワークにより設計、シミュレーション、メンテナンス、生産、製造、Eコマース開発などのグローバルなクラウドアプリケーションサービスを提供し、業界の変革におけるデジタルギャップを克服、お客様がスマートマニュファクチャリングの新しい価値推進を導入できるよう支援する。

TMBA理事長許文憲氏は「通信業界ではたいしたことないかもしれないが工作機械業界、さらには製造業全体では大きな一歩となった。」と語った。今後、工作機械メーカーは自動車産業、航空宇宙産業、ソフトウェア・サービス産業、ロボット産業、水・ハードウェア産業と業界を越えてますます密接に連携していくことになるだろう。これにより更に多くのマイクロサービスやAPIによるデータ交換の標準化が可能となり、台湾の工作機械産業の付加価値を高め、中小企業のスマートマニュファクチャリングとデジタルトランスフォーメーションの早期実現を支援することができる。

（資料源：工作機械とパーツ雑誌，2022，NO.138 頁68-71）

* **製造現場でスマートテクノロジー応用における三つのトレンド**

東海大学の劉仁傑教授は新しいコラムで次のように語った。「スマートテクノロジーに対する産官学の熱意はもはや高くない。これはある意味、価値創造のプロセスの本質から考えるプラグマティックな考え方が形になってきたとも言え、喜ばしいことだ。」彼は最近の実務を身近に観察してMES（Manufacturing Execution Systems）、デジタル管理、ウォー・ルームなどの華やかなディスプレイや、未来のスマートな実践への過剰な期待はもはや存在しないと考えている。一方、物理的なシステムの最適化に関する経験、現場でのスマートテクノロジーの導入に関する疑問は対話を豊かにするだけでなく、以下3つの重要なトレンドに反映される。

まずスマートテクノロジー応用のためのインフラは、仮想システムの通信規格だけでなく実際のシステム運用規格も重んじるようになった。例えば、インテリジェントスケジューリングソフトウェアは市場の需要に対応するのに役立つが、現場は割込み注文や発注催促への対応に疲れ、物理的なシステムのスタンダードの確立と最適化が長期的にできなくなるという結果になりかねない。多くの一流現場が学んだように、AI（Artificial Intelligence；人工知能）のマーケティングやインテリジェントスケジューリングソフトの導入を急ぐ必要はなく、プロセスの安定性における作業の改善、工程連携によるLT（Lead Time）の短縮を図ることが重要である。それこそがスマート製造の治療法となる。

第二に自動化は即効性のある省力化が可能になるが、改善の機会を覆い隠してしまう可能性がある。ある自動車部品工場では、当初ボトルネックとなっていた「給油・防錆」工程の自動化を計画していたが、この２年間工作機械の段取り替えや後工程の機械加工・組立作業の改善を行ってきた結果、この工程を削除することができた。言い換えると、後工程の要求に合わせてプレス加工を行うため、金属部品が錆びる暇がなく、本来の防錆作業が無駄だということが浮き彫りになったのだ。総経理は「もし、工程を改善せずに直接自動化に踏み切っていればこの無駄を永続させることになりかねなかった！」と語った。

第三に、AIは問題を解決することから根本的な解決に向けた挑戦は始まったばかりだということだ。前述のマーケティング活動に加え、AIの視覚認識能力は品質検査にも有効であることが実証されている。しかし価値創造の観点からは体系的かつ長期的な検討も必要だ。品質マネジメントの進化論から言えば、品質検査は最も初期の段階でありそれ自体には何の価値もない。検査データを通じてソースストリームのプロセス改善や設計改善の段階でもフィードバックすることで、品質工学を組み合わせた顧客価値を創造するというリーンシステムの考え方に沿うことができる。

（資料源：工作機械とパーツ雜誌，2022，NO.138 頁104-107）

* **2021年台湾工作機械産業の振り返り**

財政部関税総局データ処理所が提供する我が国各関税区の輸出報告資料によれば、台湾工作機械とパーツ工業同業公会（TMBA）統計の2021年台湾工作機械輸出額累計総額は27.83億米ドル、2020年比29.1％だった。そのうち金属切削工作機械輸出は29.2％増、金額23.04億米ドル、金属成型工作機械輸出は29％増、金額は4.79億米ドルだった。前月と比較すると、2021年12月の工作機械輸出金額は2021年11月より7.8％マイナスだった。そのうち金属切削工作機械輸出は11.5％減、金属成型工作機械は11.2％増だった。

2021年金属切削工作機械の主な輸出機種は順にマシニングセンタ、輸出金額は9.41億米ドル、2020.年比34％増、旋盤は第二位で輸出金額は5.9億米ドル、2020年比32.4％増だった。金属成型工作機械輸出においては鍛圧、プレス成型工作機械輸出金額が約3.78億米ドル、2020年比28.6％増となった。

輸出国（地域）別の分析によれば、2021年台湾工作機械輸出上位10ヶ国（地域）は順に中国（香港含む）、米国、トルコ、ロシア、ベトナム、タイ、インド、オランダ、イタリア、マレーシアだった。そのうち、台湾の中国大陸（香港含む）向け工作機械輸出金額は約9.11億米ドル、2020年比20.4％増、輸出全体の32.7％を占める。輸出第二は米国市場で輸出額は3.23億米ドル、輸出金額は2020年比18.3％増、輸出全体の約11.6％を占める。トルコは第三位で、輸出金額は2.41億米ドル、2020年比約46.2％増と大幅成長、輸出全体の8.7％を占める。

台湾の主な工作機械製品の輸出量推移は、マシニングセンタが2019年から2021年までの平均輸出約887台、2021年平均輸出数1,016台。旋盤は2019年から2021年まで平均約1,374台、2021年は平均1,458台。2019年から2021年までのグラインダー製品平均累計輸出台数は約5,379台、2021年の平均輸出台数は9,927台。2019年から2021年までのドリル、ボーリング、フライス、タッピング工作機械製品の平均累積輸出量は約2,058個で、2021年の平均輸出量は2,075台。2019年から2021年までの鍛造・プレス金型機械製品の平均累積輸出量は約2,281台、2021年の平均輸出量は1,364台。

財政部関税総局データ処理所が提供する我が国各関税区の輸入報告資料によれば、台湾工作機械とパーツ工業同業公会（TMBA）統計では、2021年台湾工作機械の輸入累計金額は9.71億米ドル、2020年比42.6％だった。そのうち金属切削工作機輸入金額は8.62億米ドル、2020年比47.3％増、金属成型工作機輸入金額は約1.1億米ドルで14.1％増。前月比2021年12月の工作機械輸入金額は2021年11月より19％減少した。そのうち、金属切削工作機械輸入総額は18.2％減少、金属成型工作機械輸入総額は26％減少した。

機種別に分析すると、金属切削工作機械輸入第一位は放電、レーザー、超音波工作機械で輸入金額は4.25億米ドル、輸入総金額の43.8％を占める。また2020年比で51％もの大幅成長だった。主な輸入国は日本、中国（香港含む）とシンガポール。第二位は旋盤で輸入金額は1.48億米ドル、輸入総額は15.2％を占める。2020年比78.2％増加した。主な輸入国は日本、中国（香港含む）とタイだった。

* **最近のニュース**

**二大工作機械初の連盟　海外ビジネスチャンス獲得に向け手を取り合う**

【2022-01-07 経済日報】

国内二大工作機械展覧会は2月21日から26日まで台北南港展覧館にて初の連盟による「TIMTOS x TMTS 2022」展開催、約940社の出展者が集まる。

国境管理を打破するために、FTAは2年間にわたるコロナ流行の際に経験したバーチャル実演を参考に、出展者と来場者のニーズを的確に把握しマッチングを図った。外国人バイヤーのための6つの方面でサービスを強化した。内容は、TIMTOS x TMTSオンライン、モバイルソーシング、ライブショー、グローバル機械ソーシング会議、メディアツアー、メディアリモートツアーなどで、ビリオン機械産業のコロナ後の回復チャンスを掴む支援を行っている。

FTAは海外バイヤーや海外メディア向けに、モバイルソーシングやリモートメディアツアーなど「マンツーマン」と「テーマ別」の2つの軸でそれぞれのニーズに合わせたサービスを提供する。展覧期間は解説員によるベンダーブースのマンツーマンガイドを実施。また、展示会場やメディアツアーではスマートマニュファクチャリング、重要部品、航空宇宙、電気自動車、医療、半導体など、アプリケーション別のテーマを設定し、来場者が実際に体験して出展者とリアルタイムで交流できるようにし、出展者のグローバルなビジネスチャンスを拡大することを目的とする。

**台湾工作機械昨年の輸出額は27.8億米ドル29.1％増も3割目標達成ならず**

【2022-01-08 経済日報】

2021年の台湾の工作機械輸出統計が発表され、年間輸出額は2020年同期比29.1％増となり、業界が当初目標としていた30％超には届かなかった。

これは2021年12月に新型コロナウィルスの世界的流行が悪化し、世界主要国の投資が徐々に減少したことが主因で、中国の主要市場向け工作機械輸出も12月は横ばいとなった。

特に、日本、ドイツ、オランダ、メキシコ、ブラジル、オーストラリア、南アフリカへの輸出は12月に前年同月比2倍となった。去年の主な輸出国である中国大陸も23％増となった。

去年の輸出市場の成長率は米国で18％、トルコ46％、ロシア26％、タイ35％、マレーシア48％、メキシコ159％、ブラジル74％、オーストリア61％、イタリア90％、ベトナム27％、インド45％、オランダ57％、英国76％、ドイツ31％、韓国12％、日本８％となった。

昨年輸出で減小した市場はインドで10％、。香港で45％減少だった。

2021年の台湾ドルの対米ドルレートは、2020年の同時期と比較して6.0％上昇する見込みだ。 現在、台湾ドルは日本円や韓国ウォンに対して強い通貨であり、台湾の工作機械輸出にはまだマイナスの影響があると思われる。

**台湾工作機械　昨年輸出額は29.1％増加　今年３割増加の見込み**

【2022-01-10 中央社】

台湾工作機械とパーツ工業同業工業会が１１月の台湾工作機械輸出額が10月比４％増、去年同期比47.6％増であったことを発表した。

今年前11ヶ月の台湾工作機械累計輸出額は去年同期比29.5％成長した。

工作機械工業会によれば、今年前11ヶ月の台湾工作機械輸出上位10カ国は、輸出額順に中国（香港含む）、米国、トルコ、ロシア、タイ、インド、ベトナム、オランダ、イタリア、マレーシアだった。

そのうち中国大陸（香港含む）市場は台湾工作機械輸出市場の32.9%を占める。去年同期比23.3％増。第２位の米国は11.7%シェア、去年同期比17.3％増。第３位はトルコで、９％シェア、去年同期比52.2％増加した。

工作機械とパーツ工業会理事長許文憲氏は前日、工作機械とパーツの来年度第２シーズンの受注見込みを確認した。台湾の工作機械産業の生産額は今年は昨年に比べて30％成長する可能性があり、来年も商品の供給と価格が安定すれば、台湾の工作機械産業の生産額と輸出額は20〜30％成長するだろうと予測する。

**台湾ドルの上昇　機械メーカーはオーダー満**

【2022-01-11 経済日報】

台湾機械工業会会長魏燦文氏は昨日次のように語った。「台湾の機械輸出の成長はめざましいが、近年台湾ドルが上昇しつづけているため、日本、韓国のライバル企業との競争においては不利な状況となっている。低価格での受注を余儀なくされ収益性が著しく低下している。」

続けて「2021年台湾ドルは2.87.％上昇した。競争相手国の日本は11.47％、韓国は9.67％下落した。このことが輸出の面で不利な競争条件を生んでおり、わが国メーカーの国際的受注能力に多大な影響を及ぼしている。政府は、競合相手との輸出競争力を維持するために為替レートを安定させるべきだ。」と指摘した。

魏燦文氏は自身が経営する鳳記國際機械を例に、「最近、高級品や競争力のある製品については10％から25％の値上げを導入、値上げができない製品については受注を控えている。」と述べた。

**機械業　去年輸出額で新たに新記録**

【2022-01-11 経済日報】

台湾機械工業会が昨日2021年機械設備輸出額が2020年比27.0％増、増加率20.3％と歴代新記録を創ったと発表した。機械設備がすでに12カ月連続で2桁成長を続けており、台湾の機械産業が着実に回復していることを示していると指摘した。

工業会理事長の魏燦文氏によると、昨年12月の機械輸出は引き続き増加し、単月で前年同月比15.1％増となり、2020年9月から16カ月連続の増加となった。

昨年機会輸出上位は三つの分野に分けられる。電子設備の比率は14.6％、前年比37.2%増、検査・測定装置の比率は13.6％、前年比20.2％増、工作機械の比率は8.4％、前年比29.1％増となった。

昨年台湾工作機械輸出上位三カ国は順に中国大陸30.9％シェア、米国22.2％シェア、日本6.2％シェアだった。

工具機械では、昨年12月の工作機械輸出は年間25.3％増加し、昨年は年間輸出額で3位、8.4％を占め、年間29.1％増加した。工業会の推定では、昨年台湾の工具機械生産額は1,082億台湾ドルに達したという。

**工作機械１月輸出13.8％減少　欧州向けも徐々に増加していく方向性**

【2022-02-14 中央社】

台湾工作機械とパーツ工業同業工業会が１月の工作機械輸出金額は去年12月比13.8%減少し、去年同期より2.2％減少したと発表した。

欧州経済の回復に加え、欧州の一部の国々のロックダウンが解除され貿易交流におけるビジネスチャンスが再開されたことで、世界経済の成長に新たな勢いがつくことを同工業会は予想している。

統計によれば、１月金属切削工作機械輸出金額は去年12月輸出比9.1％減少した。去年同期より３％成長した。マシニングセンタの１月輸出額は去年12月比4.3％減少、去年同期比14.6％成長した。旋盤１月の輸出額は去年12月比5.1％減少、去年同期比15.9％増加した。

同工業会によると、1月の台湾工作機械の輸出額上位10カ国は、中国（香港を含む）、米国、トルコ、ロシア、イタリア、タイ、オランダ、インド、ベトナム、ドイツ。

そのうち、中国（香港を含む）市場は台湾工作機械輸出市場全体の24.4％を占めた。輸出金額は去年同期より34.9％減少。第２位の米国は市場の11.3％を占め、輸出額は前年同期比10.7％減となった。第３位のトルコは9.8％を占め輸出金額は去年同期比46.3％増となった。

**21日二大工作機械展開催、海外バイヤー千人以上がオンラインで事前登録**

【2022-02-20 中央社】

台湾の二大工作機械展が初めて連盟で開催したTIMTOS x TMTS 2022合同展に、950社が出展し62カ国から千人以上の海外バイヤーがオンラインで事前登録を行った。今年、世界で初の工作機械展となった。

今回の合同展示会は、台湾対外貿易協会を介した台湾機械工業同業会、台湾工作機械とパーツ工業同業工業会の連携で開催された。今年のTIMTOS×TMTSは、バーチャルかつリアルモデル方式を採用して6日間の実物展と1ヶ月間のオンライン展を実施した。国内外からの来場者へ斬新なサービスを次々と展開することで来場者に新しい体験を提供した。

主催者は、この展示会が金属加工業界のサプライチェーン全体をつなぐ世界有数のB2Bツーリング展示会であることを強調、スマートマニュファクチャリングとインダストリー4.0を提示するプラットフォームを提示した。出展製品は、金属切削工具、機械パーツ、工具、工具付属品、プレス・鋳造・鍛造装置、板金加工設備、パイプ・ワイヤー加工設備、溶接・表面処理装置、コントローラ・ソフトウェアと設計エンジニアリング、ロボットとオートメーション装置、検査・計測・試験装置などで、国家や公協会のコーナーもある。

**工作機械工業会「今年輸出は楽観的　CPTPPへの加盟が関税優遇に」**

【2022-02-21 中央社】

台湾二大工作機械展が初めて連盟でTIMTOS x TMTS2022展を開催した。台湾工作機械とパーツ工業同業工業会理事長の許文憲氏が挨拶を述べた。製造業は台湾の経済・産業発展の基盤だ。政府は昨年9月、アジア太平洋地域における経済連携協定（CPTPP）への加盟を正式に申請した。政府が他の加盟国からの支持を積極的に獲得することを期待する。

許文憲氏は次のように語る。「台湾工作機械の70％以上が輸出向けであり、為替レートや関税は産業全体の競争力に影響を与える。相互貿易協定を締結することで企業が関税の優遇を受けられるよう協力する。」

続けて「昨年10月に工作機械工業会が『工作機械産業白書』を発行した。工作機械が国の主要製造業の発展に貢献するべく、工作機械産業の高価値をアピールし、世界の工作機械産業における台湾の影響力を高めたいと考えている。今後工作機械業界はインテリ化・デジタル化に向けて変革し、付加価値を高めていくことが求められている。労働力ではなく知恵で稼ぎ、機械だけでなくノウハウを売っていきたい。」と述べた。

**台湾工作機械の大逆転劇　大陸で回復**

【2022-02-22 連合報】

台湾の工作機械産業は過去2年にわたって米中貿易戦やコロナ流行の影響を受けてきたが、現在は見事に復活し輸出実績も回復し伸び続けている。大陸市場について台湾業者は次のように語った。「流行とは関係なく昨年は前年比15〜20％程度の微増であったという声も聞かれた。また一部の業界関係者からは、中国本土の景気は昨年第４シーズンに回復し、昨年第４シーズンの業績はそれまでの四半期と比較して徐々に回復、5％から10％の成長となっているとの指摘があった。」

台湾二大工作機械展初の連盟による展覧会、2022年「台北工作工作機械展」と「台湾工作機械展」が昨日台北で開催された。台湾の多くの業者だけでなく、アメリカやスイスなど16カ国、さらには中国からの出展もあり大変賑わいだ。

台湾工作機械工業同業工業会の理事長、魏燦文氏が開幕式で式辞を述べた。「昨年１月から12月の工作機械輸出額は年間輸出第３位に並んだ。8.4％を占め、昨年同期比29.1％増加、台湾工作機械の年間生産額は1,082億台湾ドルに達すると予想される。」

**政府がロシアへの輸出を規制した場合　工作機械工業会「政府にあわせる」**

【2022-02-23 中央社】

台湾工作機械とパーツ工業同業工業会理事長の許文憲氏が本日次のように語った。「ロシアへの工作機械や機器の輸出を規制することが政府の方針である場合、我々は政府の方針に協力する。2021年の台湾の工作機械の輸出におけるロシアのシェアはわずか2.88％で、メーカーはすでにリスクを分散している。」

ウクライナとロシアの緊張状態に関して台湾は日米との戦略的提携にあわせるつもりだと語った。ロシアへの半導体を含む技術製品の輸出禁止について許文憲氏は「輸出管理については、ハイエンド5軸工作機やハイエンドコントローラーなどの戦略的ハイテク製品を北朝鮮やイランなどに輸出する場合、経済部国際貿易局が管理し申告する必要がある。ロシアへの工作機械や機器の輸出を規制することが政府の方針である場合、我々は政府の方針に協力するつもりだ。」

許文憲氏は次のようにアドバイスしている。「状況の変化に対応するため、政府は計画的に半導体、3C、工作機械などの主要部品や原材料の在庫を確保する必要がある。どの原材料部品がロシア産かを確認することで、欠品や大手トレーダーによる意図的な価格操作のリスクを回避することができる。」

許文憲氏はまた次のようにも述べた。「台湾の工作機械・部品輸出は、過去20年以上にわたって断片化の危機にさらされてきた。近年の米中貿易戦やCOVID-19の流行に加え、台湾メーカーが中国から米国、東南アジア、欧州へと市場を多様化させている。近年、ロシアでは重工業の発展が盛んで台湾への工作機械や部品の調達が拡大している。」

**1月の製造業に4回目のグリーンライト、露・宇戦争とインフレがブラックスワン**

【2022-03-03 連合報】

台湾経済研究院が本日、111年1月の製造業経済指標を発表した。変異ウイルスに対する規制が世界的に徐々に緩和され、各国がインフラ整備を推進し始める中、わが国製造業の輸出実績が後押しされ需要や原材料投入の指標も引き続き強化された。1月の国内株式市場は、米国および欧州のインフレ圧力が高まる中、連邦準備制度理事会は更に多くの利上げとテーパリングの加速に関するニュースをリリースし続けている。更に1月下旬にロシアとウクライナの軍事危機が深刻化したことなどから1月の国内株式市場は大きく変動した。幸い、向こう6ヶ月の見通しを楽観視する企業の割合が前月より増加し事業環境指標を押し上げた。その結果、製造業の景気シグナルは110年12月の13.73ポイントから111年1月の14.58ポイントに上昇、ライトは緑を保っている。

機械製造販売業では、半導体産業の活発な生産拡大により半導体製造装置、自動化機械設備、工作機械の需要が高まり、原材料の投入や事業環境が好転したことにより、業界の景気指標は衰退の青信号から低迷の黄信号に変わった。

台湾経済研究院によると、1月は世界経済と貿易活動の着実な回復、新たな商機と各国積極的なインフラ整備などが輸出、生産、輸出注文などを促した。メーカーは今後6ヶ月間の経済パフォーマンスについて楽観的な見通しを持つようになっている。110年12月の35.5％から1月には39.6％に増加、少なからずの成果が見られた。

**露・宇戦で台湾工場の7割が資金回収問題に直面　政府への4大提言**

【2022-03-03 中央社】

ロシアとウクライナで戦争が勃発し、ロシアが国際銀行間通信協会から排除された。台北市輸出入公会によると、調査対象となった台湾の工場の70％が資金回収問題に直面しているほか、商品が原因で輸出入停止や通関止めに遭遇している。32.7%のメーカーが未だ正確な情報を得られておらず、対策を立てることができないため政府に対して4つの提案を行った。

第一に、ロシアに対する輸出規制措置を明確に打ち出すこと、第二にメーカーが代金を回収できるよう政府に他の国際金融取引チャンネルを提供してもらいたい。第三に海上貨物がウクライナの港に入港できないためEUを通じて通関できるよう支援を希望する。第四に被害にあったメーカーには救済措置や資金調達のルートを提供してもらいたい。

台北輸出入公会は次のように語る「台湾とウクライナ、ロシアとの貿易は、ウクライナとロシアが半々で、両国の貿易業者との直接輸出が中心である。主な輸出製品は工作機械、機械、パーツ、ハードウェア、自動二輪車用部品だ。

通関物流の分野では、メーカーから「政府の規制により輸出できない製品がある」との指摘があった。ウクライナの港にスムーズに入港できず、海上に浮遊している貨物もある。貨物の所有者と連絡が取れず、他のEU諸国に転送されて輸入されたりもしている。しかしウクライナは非EU加盟国で輸入管理制度も異なるため検疫条件などの処理において政府に協力を要請する必要がある。

**露・宇戦争により機械受注額は2億ドル影響と推定**

【2022-03-10 経済日報】

昨日台湾機械公会は、ロシアとウクライナの戦争が勃発後ほぼ60の機械メーカーが影響を受けていることを指摘した。公会の統計によると昨年わが国のロシア向け機械輸出は21位で、金額はわずか2.76億米ドルで約0.8％だった。

ロシアの輸出が機械産業全体に与える影響は限定的だがロシアとウクライナの戦争により、エネルギーや原材料の価格が急騰、当面は回復の見込みがなく原材料や運送コストは上昇し続けると考えられる。

台湾機械工業会は昨日、今年2月の機械設備の輸出額が前年同月比28％増加したことを発表した。台湾ドル換算で25.5％増となり、2020年9月から18カ月連続でプラス成長、過去3年間で2月の輸出実績が最高となり、国際経済における機械設備への需要が引き続き高いことが示された。

朗報なのは、2月の工作機械輸出額が前年同月比59％増で4位になったことだ。 機械輸出額は1〜2月で前年同期比19.4％増、台湾ドル換算で16.5％増となった。 工作機械は全体の8.1％を占め、前年同月比21.7％増となった。

　1、２月の機械輸出トップ3は、米国が26.2％、中国大陸が25.2％、日本が6.2％であった。 米国は2ヶ月連続で中国大陸を抜いた。

**日本、ロシアへの半導体など約300品目を輸出禁止に　最恵国待遇を撤回**

【2022-03-16 経済日報】

日本は昨日、半導体、工作機械、先端材料などの製品・技術におけるロシアへの輸出禁止を発表、米国や欧州ともにウクライナに軍隊を送ったロシアへの制裁を行った。また日本政府は本日、ロシアの最恵国待遇の撤回、すなわち世界貿易機関（WTO）下の基本的な貿易権の喪失を発表すると言われている。

経済産業省によると、原子力、電子、通信の各分野266品目近くと、チップ製造装置のプログラムなど26の技術が禁止対象になっている。 ベラルーシもロシアの侵略を支援したとして制裁対象に含まれている。

自動車や建設機械は対象外なので、日本の対ロシア輸出全体にはほとんど影響がない。生物・化学兵器の製造に使用できる物質も禁輸の対象になっている。

昨年、日本の対ロシア輸出は全体の1％程度に過ぎず、ロシアからの輸入される6割強は原油、液化天然ガス、石炭だった。

**米国製造業の恩恵を受け機械輸出は過去最高の360億米ドルに達するか**

【2022-03-24 中央社】

台湾機械工業会の魏燦文会長は本日、「米国政府が中国からの352製品の関税免除を復活させたことは台湾の機械産業に影響がない。米国への輸出工作機械、木工機械、プラスチック機械、その他の機器を含む「米国製」の恩恵を受け続けることになる」と述べた。

今年の台湾機械産業の業績に関し魏燦文氏は、今年の台湾機械産業の金額は1兆5000億元を超え、過去最高だった昨年の1兆3000億元から15％以上の大幅増となると予測している。台湾の機械輸出額は、昨年の331億4千万米ドルから今年は360億米ドルを超え、これもまた過去最高を記録すると推定される。

魏燦文氏は「米国市場の力強い成長モメンタムに加え、インド、中東、アフリカ、南米などの市場も連動して成長しており、各国は金儲けと経済の活性化を目指している」と述べた。また「今まで聞いたこともないような国が設備を買っている」という。機械設備を輸入する必要がある。